

## 修正箇所対応表

委員名	意見	反映箇所
平野委員	2ページ目の「河川等の状況の情報は、個々の居住地の状況が生じる原因の情報で、状況全体を理解する上でも重要であり」の部分はわかりやすくすべきである。	・ P2
白石委員	情報の量を絞り込むということも大事であり、段階的に出すということも大事。さらに最適化されたメディアとか媒体を使っていくことが大事ということを書くべきである。 ランクなども、周辺状況がわかっていないと判断できないこともあり、その意味からも教育も重要である。 教育の重要性、わかりやすい情報を提供するためのメディアツールの重要性を強調して書いて欲しい。	・ P2、14、15
山崎委員	「山田大橋の桁下から2 m下がりのところまで」といった表現は、「2 m下のところまで」とか、「2 m下がったところまで」といった普通の平文にすべきである。	・ P4
伊藤座長	4ページのア)に「破堤に繋がるおそれのある現象」とあるが、これは具体的にはどういう現象が起きたら破堤につながるのかを、「水漏れや亀裂」などといった例をあげて書くべきである。	・ P4
山崎委員	昔から渇水時には水利権の融通が行われてきた。難しい問題ではあるが、平常時の渇水情報の中で水利権に関する情報も提供すべきである。	・ P9
池淵委員	渇水の場合は、いろんな段階の中で今はどこにあって、今後どういうふうに推移するのか。さらに解除ということも非常に大きな関心であるため、それらに関する情報を提供すべきである。	・ P10、11
廣井委員	日本は高温多湿で雨が降るという事実があり、水が豊富だという気持ちをみんなが持っている。ところが現実には、雨は降るけれども、すぐ川に流れていってしまう。利用可能な水は非常に少なく、何年かに一遍は渇水状況が起こるということを伝えるべきである。	・ P12
山崎委員	今回はわかりやすい洪水・渇水の表現の検討会なので、情報の伝達については、この部分だけの別な委員会で議論すべき内容である。情報の伝え方の問題意識をしておくのは必要なことである。	・ P14
廣井委員	河川管理者等が直接テレビやラジオに出演して危険性を伝えるような仕組み、あるいはテレビのスタジオと電話で状況を伝えるような仕組み。一種のホットラインのようなものが必要である。	・ P14